

第 1 回中野区消防団運営委員会 書面審議結果

- 1 開催日
令和 4 年 1 月 1 9 日 (水)
- 2 参加者
 - (1) 委員長
酒井直人 (中野区長)
 - (2) 委員
西沢けいた (都議会議員)、荒木ちはる (都議会議員)
高倉良生 (都議会議員)、河原井守 (中野防火防災協会会長)
大野道高 (野方防火防災協会会長)、市川しんたろう (区議会議員)
加藤拓磨 (区議会議員)、河合りな (区議会議員)
ひやま隆 (区議会議員)、いさ哲郎 (区議会議員)
内野大三郎 (区議会議員)、上原源隆 (中野消防署長)
山口圭二 (野方消防署長)、本多正 (中野消防団長)
大野壽一 (野方消防団長)
 - (3) 事務局
中野区 総務部 危機管理課 防災担当課長
中野消防署 警防課長
- 3 送付資料
 - (1) 次第、名簿
 - (2) 特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針と消防団の取り組み
 - (3) 特別区消防団運営委員会の諮問について
 - (4) 委員会日程 (案)
 - (5) 回答様式
- 4 審議内容

1 継続的な図上訓練や活動マニュアルの整備は行っているが、震災に特化した実践的な訓練は十分であるとは言い難い

- (1) 実践的な現場力の向上
- (2) 訓練実施環境の改善や実施場所の確保
- (3) 消防団員、消防職員への教育
- (4) 消防隊との連携
- (5) 消防団員の安全管理の実践

【西沢委員】

震災対応を実際に経験された、団員・署員の体験談などを基にした活動はどうか。教育に入るのでは。

【事務局】

過去の震災発生時の経験を生かした震災当日の参集状況、活動等も含め広く体験を踏まえた訓練 (遠距離送水訓練等) を実施していきます。

【加藤委員】

大規模地震発生時には消防署の人員では足りず、団員のみで消火する想定が必要である。

<p>【事務局】 震災時に使用可能な防火水槽、河川等を活用した水利部署要領や消防団隊のみでの消火活動を想定した訓練を推進していきます。</p>
<p>2 新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の訓練や新人教育訓練が困難である</p> <ul style="list-style-type: none"> (6) デジタル環境の有効活用による活動力維持や向上 (7) デジタル環境の充実 (8) 新たな技術の活用
<p>【西沢委員】 正しく恐れるための感染症への理解を推進する。</p> <p>【事務局】 国や都の基本的感染防止対策(喚起、3密の回避、マスク着用、手洗いなど)の徹底を図りながら訓練、教育を実施していきます。</p>
<p>【加藤委員】 訓練は、人によって適切な量が異なるため、各人のペースに合わせられるカリキュラムの設定が必要と考える。</p> <p>【事務局】 各団員の体力、経験等に合わせた訓練、教育を実施し、災害時は各自の体力等を考慮した任務班付与を実施していきます。</p>
<p>3 消防団員数の不足に伴い、活動力の低下が危惧される。</p> <ul style="list-style-type: none"> (9) 若い世代の団員確保と組織の活性化 (10) 募集広報の充実・強化 (11) 女性や学生など対象に応じた募集広報の継続及び強化 (12) 震災時等、大規模災害時の活動力向上のための人員確保
<p>【西沢委員】 (9)から(12)に集約されると思います。これらをさらに強化していくことが大切だと考えます。</p> <p>【事務局】 若い世代の入団者確保のため各種広報媒体、募集場所等の見直しを図りインターネットを活用した募集活動等を推進していきます。</p>
<p>【加藤委員】 年間の入退団の変化を捉え、団に継続して活動していただけるような方策も必要。</p> <p>【事務局】 大規模災害団員制度を活用し、実績・経験を有する退職団員を確保していきたいと考えています。</p>
<p>【河合委員】 時代の変化に合わせた消防団の在り方検討。</p> <p>【事務局】 若い世代、女性など多様な方々が活躍できる環境づくりと、魅力を感じる広報を検討、展開していきたいと考えています。</p>

【内野委員】

入団促進の広報を工夫すべき。

消防団に入るメリットがあれば、入団率が上がり退団率が減る。

(10) SNS等ICT化による募集広報の充実強化

【事務局】

既存の募集活動と並行しSNS等の活用や新たな広報媒体の検討など、積極的な広報を展開していきます。

4 消防団員の平均年齢の上昇に伴い、各種活動面における負担軽減に配慮した資機材の整備が望ましい。

(13) 新たな資機材整備による負担軽減

(14) 既存資機材の軽量化やコンパクト化による負担軽減

(15) 地域特性に応じた資器材整備

【西沢委員】

団ごとに対応まちまち、きめ細かい資機材の整備が重要(15)になるかもしれません。

【事務局】

現場の各消防団員からの意見を聴取し、地域特性に応じた資器材について優先順位を踏まえ整備したいと思います。

【河合委員】

女性、高齢の団員が活躍できる役割の見直し。

(現場だけではない働き方、応急措置やAED使用等の強化)

【事務局】

応急救護訓練や防災訓練指導等を含め、女性、高齢の方が活躍できる場を検討するとともに、今年度も救急に関する資格講習を計画するなど、消防団員の魅力とやり甲斐づくりを進めています。

なお、AED取扱い訓練は分団単位で計画的に実施予定です。

【市川委員】

地域特性を踏まえて検討すべき。

【事務局】

現場の各消防団員からの意見を踏まえ、地域特性に応じた資器材について優先順位を踏まえ整備したいと思います。

その他

【西沢委員】

特に感染症については、状況がすぐに変化します。柔軟な対応が必要かと思えます。

【事務局】

常に早期の情報収集と国、都からの指示を遵守し、状況に応じた万全の対策を講じながら活動していきます。